

# いわき地区の歩みと活動紹介

—— 歴代のいわき地区会長のご紹介と主な活動をご紹介します。 ——

## ■ 初代会長

(1999年11月～2002年2月)

(故)高木 和夫さん

〔株五輪〕

1999年11月22日にいわき地区が創立されました。会員総勢24名でスタートしました。いわき地区の生みの親が初代会長の高木和夫氏でした。いわき地区がまだ発足していなかった当時は、郡山地区に入会し片道1時間かけて例会や会合等に参加されていたそうです。

いわき地区の生みの親である高木会長が、同友会にかけた熱き想いと行動力抜きでは、いわき地区誕生の歴史も語れない人でした。

創立時は、事務所もなく、毎月の例会と懇親会等を通してわずかな会員と親交を深め「中小企業家同友会」の目的と趣旨に賛同する会員(仲間)の拡大が中心となった時期でした。



残念ながら、これからという時期に病魔には勝てず、任期途中で他界されました。いわき地区への愛情とご尽力、更には会員拡充等のご活躍に感謝するとともに心からのご冥福をお祈りいたします。



## ■ 2代目会長

(2002年2月～2003年3月)

濱田 英晴さん

〔株サンテック〕

この時期は、会員数も微増ながらも60名を超え、会員の集いの場として「いわき地区サロン」ができました。2002年5月に経営者交流大会の実行委員会を組織し、市川副会長に実行委員長を務めていただきました。いわき地区最大のイベントへ向けて大会参加の呼び掛けや会合、打合せを重ねながら会員同士の親交を深め、さらなる結束力が生まれました。2002年11月には、念願の経営者交流大会(第26回経営者交流大会:スローガン:元気、やる気、いわき。サブタイトル:～新たなる夢を浜風にのせて～)をいわき地区で開催しました。参加者327名と目標数を超え、大盛會に終

わることができました。全県を挙げてのご協力、大会に相応しい記念講演と分科会が行われ、学ぶことの大切さ、交流することの楽しさを感じた大会でした。経営者交流大会の準備や取組みを契機に会員が集い、互いに協力し団結し、新規会員も増えました。いわき地区の行く末を思い他界された、故高木会長へ墓前報告



も行い、いわき地区会員の心に消えることのない一つの歴史が刻まれた実り多き経営者交流大会でした。この年に、いわき地区会報誌「浜風」が発刊され、いわき地区会員のコミュニケーションツールとして産声をあげました。この年は隔月発刊で「浜風」を5回発刊しました。

濱田会長には、任期途中で、他界された故高木会長

の同友会への遺志を受け継ぎ県とのパイプ作りに奔走し寸暇を惜しまず、地区会員をまとめ、磐石なるいわき地区構築の為に汗し、そして涙して頂きました。会長職を退かれても、いわき地区誕生の歴史と初代高木和夫会長の熱き想いを語り継げる人であり、今なお、いわき地区の顧問的な存在としてご尽力いただいております。



### ■ 3代目会長

(2003年4月～2005年3月)

**市川 義充**さん

〔株〕福島スイケンエンジニアリング

2003年度は、いわき地区が発足して第5期という節目の年を迎え更なる発展と共に学び合うために新組織を編成しました。委員会には、「報道委員会」「経営情報委員会」そして「同友会大学実行委員会」を新設しました。「同友会の理解の輪、元気を、やる気を広めよう」をスローガンに新体制でスタートしました。会員数も102名に拡大し2003年6月には、いわき地区会員念願のいわき事務所が開設しました。同友会の会合や各委員会や専門委員会の会場とし、多いに活用されいわき地区会員が更に飛躍するための一步となりました。事務所開きには、いわき市長、いわき商工会議所会頭はじめ、地元経済界のリーダーが10名と多くの来賓者を集め対外的にも同友会の知名度をPRができました。2003年6月には、濱田前地区会長が同友会「発酵文化研究会」や「ナイスボギー倶楽部」を発足し、

2003年9月には、同友会大学への参加。2004年8月にはいわき地区で「第1回同友会ふれあい夏祭り」の開催。「会員、家族、社員、さらには一般市民との交流」をコンセプトに様々な催しを実施しました。2005年2月には、「いわき市長を囲む懇談会」を開催、また3月には、いわき地区で初めての「合同入社式」を開催し、いわき地区会員の5社、7名の新入社員が参加しました。

次年度からは、県副理事長として同友会の発展といわき地区会員のためにご尽力頂いています。



### ■ 4代目会長

(2005年4月～現在に至る)

**矢内 芳則**さん

〔株〕マックスガイ

「すべての会員が入会して、さらに良かったと思える同友会にしよう」をスローガンに、例会の充実、経営指針の確立、積極的な委員会活動、活発な会員同士の交流、新規会員の増強を重点課題としてスタートしました。

2005年5月には、会員拡大委員会主催で「同友会を

知る会と交流会」を開催し新会員4名が入会されました。2005年7月には、いわき地区会員の外部への情報発信として「シーウェーブFMいわき」のラジオ放送を開始しました。多くの市民に同友会の良さと会員企業を理解して頂くために地区会員が登場し経営に関すること、あるいは、人生観などの熱い想いを語るトーク番組です。いわき地区会員であれば誰でも出演できます。同月には「第2回同友会ふれあい夏祭り」も開催。前年と同様に村上実行委員長を中心に164名の地区会員がひとつになれた夏祭りとなりました。8月には、いわき地区で初の「献血推進キャンペーン」を行い会員並びに社員や知り合いの多数が献血にご協力頂きました。そして10月には、いわき地区で初の「報道各社との懇談会」を開催し、いわき地区で活躍する報道各社の代表者9名を招きいわき地区会員との懇親を深めました。年が明け2月には、恒例の「いわき市長を囲む懇談会」を開催し、さらに会員増強キャンペーンのイベントとして、大型版「同友会を知る会」を開催し、目標の会員200名を達成しました。次年度の2006年4月には「8つの研究グループ」が発足しました。従来例会の枠を超え、自らが学びたいテーマを選び共に



学び議論を交わすことで、会員同士の交流と更なる親交を深めております。7月には、恒例の「第3回同友会ふれあい夏祭り」を開催し、前年以上に大盛況となりました。9月に実施した、「献血推進キャンペーン」も第3回となり、いわき地区会員の社会貢献活動も恒例となりました。同月「第16期同友会大学」をいわき地区にて開校し会員52名の参加がありました。11月には、「同友会を知る会」を開催し「会員250名達成」に向けて会員増強に只今邁進中です。

以上(文責/いわき地区広報委員長 佐々木 剛)

## いわき地区がこれから目指すもの

すべての会員の皆さんが、経営指針をつくり、そしてそれを社内に浸透させ、実行していくことにより地域の皆さんから、とても魅力的な会社だと評価される、素晴らしい会社にしてほしいと思います。そのためにも、まずは全会員の経営指針の確立は、早急にしなければいけないと思います。

経営指針を確立することにより、社員がその会社で働くことへの誇りと自信をもち、いきいき働くことになり、そこではじめて魅力的な会社になっていくのではないのでしょうか。

中小企業の活性化なしに、地域の活性化はないと言われるように、我々が経営指針をつくり魅力的な会社をつくるのが、地域への最大の貢献になるのではないのでしょうか。そして辞書の1ページである会員を増やしていき、ともに魅力的な会社、そして魅力的な同友会をつくっていきましょう。

(いわき地区会長 矢内 芳則)